

■北海学園大と北海道大が連勝。道学生選手権第3節

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権第3節は9月7日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンドラグビー場で1部の2試合を行い、北海学園大が東京農業大に83-0と大勝し、北海道大は帯広畜産大に14-0で勝った。北海学園大と北海道大は2勝目、東京農業大と帯広畜産大は2敗目。第4節は9月14日、帯広畜産大グラウンドで1部の室蘭工業大-東京農業大（午前10時開始）、釧路公立大-帯広畜産大（午後1時開始）を行う。

北海学園大-東京農業大は、北海学園大が第1Q4分にRB加藤真之助（4年）の1ヤードダイブで先制すると、同5分にQB成田滉佑（4年）からWR福原柊太（1年）へ20ヤード、同8分にはWR神林駿太（2年）へ30ヤードのTDパスが決まり21-0。第2Qも1分にRB末広大貴（2年）の13ヤードラン、3分、6分、9分にはQB成田からWR神林へ74ヤード、20ヤード、9ヤードの3連続TDパスで49-0とリードを広げた。

北海学園大の勢いは後半も止まらず、第3Q開始のプレーでWR八乙女凌太郎（4年）の94ヤードキックオフリターンTDが飛び出すと、同8分には2番手QBの松平悠杜（2年）の1ヤードランで62-0。第4QもQB松平からWR山田靖耀（1年）へ58ヤードと15ヤードの2本のTDパス、WR福原へこの日2本目となる31ヤードパスで83-0と大差を付けた。

東京農業大は初先発のQB富村昊平（2年）のパスで反撃を試みたが、敵陣に攻め込めたのが1度だけで完敗でした。



北海学園大の高木幸樹HCは「総力戦だった。神林の4TDはたまたま。今日は人数で勝てたが細かなミスが多い。（3週間後の）北海道大戦に向けてプレーの精度を上げたい」と気を引き締めた。4TDレシーブのWR神林は「2年生になってフィールド全体が見

えるようになった。（捕球後に60ヤード余りを好走した）2本目のTDは、その成果かもしれない。1年生WR2人も2TDなので、追い抜かれぬように頑張りたい」と決意していた。

東京農業大の大類楽コーチは「先発QBの富村は状況判断ができていた。次の室蘭工業大戦に向けてチームの状態を上げていきたい」と巻き返しを誓っていた。

北海道大は帯広畜産大に14-0で辛勝した。試合は前半が0-0。北海道大のLB高山智史（2年）が2回のインターセプトを見せると、帯広畜産大のQB/DB桂田陽向（4年）もインターセプトのお返しをするなど守備の応酬となった。均衡が破れたのは第3Q2分、帯広畜産大のパントの場面でスナップミスのこぼれ球を北海道大LB室光毅（2年）がエンドゾーンで押さえて先制TDを奪った。同9分には北海道大のエースRB下島圭太郎（3年）の10ヤードランで14-0とリードを広げた。



帯広畜産大は桂田と穂山偉月（2年）の2人のQBのパスとRB安澤十野（3年）のランで反撃。14点を追う第4Qには敵陣5ヤードまで攻め込んだがミスで詰め切れず、無得点に終わった。

北海道大の樋之本彬HCは「攻撃のリズムをつかめなかった。下島のTDは、RB岡田陽亮（2年）のランが流れを変えた。守備の踏ん張りは前向きにとらえたい。北海学園大戦は技術、戦術よりも一番に気持ちを高めて試合に臨みたい」と大一番をにらんだ。先制TDに加え、終了間際に帯広畜産大の反撃を封じるインターセプトを決めたLB室は「TDは、味方がパンターをタックルしてこぼれたボールを押さえた。春の東北大戦のTDと同じ。強運の持ち主かもしれません。北海学園大戦は本職

のLBで頑張りたい」と力を込めた。

帯広畜産大の鏡順之助監督「前半は絶対に勝てると思ったが、スナッフミスで流れが変わった。ただ、少ない人数だが、体力強化の成果は出ている。RB安澤は大黒柱の活躍をしている。あと3試合、どういう内容で圧倒できるかだ」と勝負どころを見据えた。

(学連広報委員 塚田博)